湯浅広川消防組合では「世界津波の日」を前に10月26日、湯浅町教育委員会教育長の垣内貞氏を招き「濱口梧陵と防災」をテーマに防災講演会を開催しました。1854年（江戸時代末期）に発生した安政南海地震の津波から多くの村人を救い、その後も莫大な私材を投じて村の復興を成した広川町の偉大な先駆者である濱口梧陵の逸話が「稲むらの火」として世界に紹介されました。これを契機に2015年の国連総会で11月5日を「世界津波の日」に制定することが決定されました。濱口梧陵翁が残した様々な業績に職員一同は感動と供に、さらなる防災意識の高揚が図られた講演会となりました。



